

テーブルの向こう側から 補足資料 ～Vol.30～

2019年5月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動は日本でのヘルシーな食生活の推進と、支援先での学校給食の提供が両輪になっています。ニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

食堂をご利用される皆さまに親しんでいただけるよう、改良を重ねてまいりたいと考えております。皆様からのご意見やご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

<ケニアを視察訪問しました>

2018年10月に、TFT代表の安東がケニアのルシंगा島とムファンガノ島を訪問しました。西部のビクトリア湖の島で、国内でもHIV/エイズの感染率が高い地域のひとつです。

TFTは2012年より同地区で給食を提供してきましたが、皆さまのご支援のおかげで昨年より、支援先が幼稚園・小学校あわせて6校から9校へ拡大しました。現在は幼稚園2園、小学校7校に通う合計2,744名の生徒・園児に学校給食を提供しています。

日本国内での活動状況のお知らせ

<これまでに寄せられたご寄付> *TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 7,024万3,756食分 (2019年3月時点)

東アフリカとアジアの6カ国（ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

<TABLE FOR TWO活動報告会のご案内>

1年間の活動報告会を、東京・大阪・名古屋にて7月に開催します。事務局からの活動や視察のご報告に加え、ご参加企業様からの自社でのお取り組みのご紹介や交流会を通じ、成功点や課題点の共有、およびご担当者同士の交流を深めていただく場にできればと考えております。ぜひご参加いただけますと幸いです。

<日程>

東京：7月4日（木）、大阪：7月8日（月）、名古屋：7月10日（水）

Facebookページで情報発信中



www.facebook.com/tft.jp/

ケニア共和国 ルシंगा島・ムファンガノ島

TABLE FOR TWOでは2012年から、ケニア北西部に位置するビクトリア湖のルシंगा島、ムファンガノ島の子どもたちに支援を続けています。島民の8割は漁師で、島から島へ移動しながら漁を続けるためエイズが蔓延しています。子どもたちの多くの人々が家族や親戚を失っており、学校に通う3分の1は孤児という厳しい環境です。



子どもたちが頭にのせているのは、生活用水が入ったバケツ。学校帰りに湖で水を汲むのは、子どもたちの大事な日課の1つ。遠い子は山道を30分程かけて、家族のために自宅まで運びます。



給食の様子

給食はウガリという、とうもろこしの粉をお湯で練ったもの。現地でよく食べられる主食です。国や地域によってポショともいいます。湖でとれた小魚と近隣の畑でとれた長ネギを煮込んだスープをかけて食べます。他にも日替わりで、ケール、ソルガム、キャッサバ、バナナが提供されています。



昨年からは支援する小学校を新たに3校増やし、幼稚園2園、小学校7校に通う合計2,744名の子どもたちに学校給食を提供しています。

少女の夢を後押しする学校給食



クリスティーヌちゃんの祖母は「給食を出してもらえるおかげで子どもが学校に通える、本当にありがたい」と微笑みながら話します。クリスティーヌちゃんは将来は先生になりたいと語っています。

クリスティーヌちゃんの父親は早く亡くなりました。そのため母親が漁師の手伝いをしながら祖父母と子ども3人を養っています。生活は苦しく、お腹がすいて学校に行けない日もあったそうです。



給食は子どもたちにとって貴重な栄養源



以前は学校に通えなかった子どもたちも給食によって毎日学校に通えるようになりました。

「小学校で毎日おいしい給食を食べられるようになり、本当によかったです。」

「毎日学校に行って、友達と遊んだり給食を食べられるのが楽しい。週末になると、学校の始まる月曜日が待ち遠しいんだ。」
といったコメントが寄せられています。

島の幼稚園では、朝ごはんも出しています。朝ごはんはウジと呼ばれるとうもろこし、タカキビ、キャッサバなど作られたお粥です。

幼い頃の栄養状態がその後の発育に大きく影響するため、早い段階でたっぷり栄養をとることが重要です。家庭で満足な食事を取れない子どもにとって、給食は貴重な栄養源です。



島の先生と生徒の母親の声



先生：「大きな変化がありました。給食が始まってから子どもたちは健康になり、栄養失調の子どもはもういません。以前は、学校に来たり、来なかったりでしたが今は毎日来るようになりました。学校に来れば朝と昼に給食を食べられるからです。」

生徒の母親：「私は学校を辞めなければいけなくなって勉強ができなかったから子どもたちはしっかり勉強をして良い暮らしをしてほしいと思っています。」

給食は子どもたちだけではなく島全体の希望となっています。



TABLE FOR TWO代表 安東より

2012年から継続的に支援を行なってきた、ケニアのルシンガ島・ムファンガノ島。支援開始の際、子どもたちは日々の食事でもまならない状況でしたが、先生たちが「栄養失調はうちの学校からなくなった」と言い切るまで状況が改善しました。



日本の皆さまがTABLE FOR TWOを通じ支援をしてくださっている事に、村の人々は溢れんばかりの感謝の気持ちを表現してくれました。「遠く離れた国の皆さんが私達の事を考えてくれる。支援を続けてくれる。皆さんの存在そのものが、村の宝です」と、現地リーダーのPatrickが語ってくれました。